

## 美作の狛犬（6）

田淵千香子

### はじめに

私は、美作地域の狛犬を悉皆調査している。奉納されている狛犬の中には、年代・石工銘以外にも、台座に寄進理由が記されたものが存在する。狛犬がどういった経緯で寄進されたのか知る上で大変重要な情報である。寄進理由の中には、「皇紀二千六百年記念」「興亜記念」など氏子中で戦勝祈願をしたものが多いが、「古希記念」「快気祝い」「日参記念」など、個人的な理由で奉納する場合もある。

さて、今回知人から自身が10年に渡り翻刻されている明治時代の日記に狛犬が奉納されるまでの経緯のわかる資料が見つかったという知らせが入った。それは、明治時代に活躍した津山市の実業家・安黒一枝の日記である（註1）。今回は、この日記の記述を元に

### 木山神社（里宮）拝殿前の狛犬



（写真1）真庭市木山神社（里宮）拝殿前の狛犬

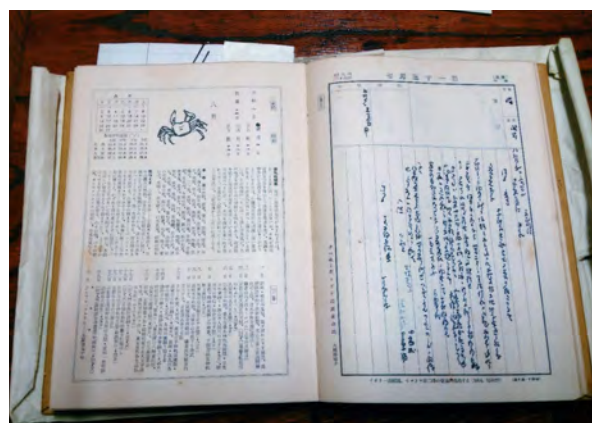


（写真2）木山神社里宮狛犬台座銘文

狛犬奉納までの経緯を追っていきたい。

木山神社（里宮）の狛犬の台座には、阿・吽それぞれに寄進理由が記されている（写真1・2）。阿形には、「御里宮 御造営記念 津山市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建」吽形には、「自明治四十

年一月至昭和廿二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野 高岡虎市」といった銘文が書かれてある。高岡善直が、木山神社に里宮が出来たことを記念、また高岡虎市が50年間奥宮まで日参したことを記念して、狛犬を奉納したことが明記されている。



（写真3）『安黒一枝日記』昭和34年

### 安黒一枝の日記に見られる狛犬奉納までの記述

『安黒一枝の日記』は、明治32年～昭和38年、安黒一枝が亡くなる年まで、毎日書かれていて、日記帳48冊と大学ノート23冊、その他の綴り14冊にまとめられている（註2）。その中に、「昭和34年7月31日 高岡君来荘 木山神社奉献コマ犬ノ名文ヲ据ヘタタ之々」とする記事があった（写真3）。「高岡君」とは誰なのか。日記を調べていくと、「高岡君来荘」という記述が毎日のように並んでいる。昭和15年5月24日の記述には、「高岡君来荘 善真君無事帰還ニ付木山に御礼詣ルヲテ」とあり、また昭和36年7月25日には、高岡虎市が亡くなった後に「高岡善真君来荘 父翁仕上昨日執行ヲ由ニ送品」と書かれてある。「高岡君」とは、高岡虎一（市）という人物で、その息子が高岡善真という名前であることがわかった。木山神社（里宮）の狛犬の台座銘には、「御里宮御造営記念 津山市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建」・「自明治四十年一月至昭和廿二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野高岡虎市」とあり、日記の記述を照合すると、高岡虎市の字が「市」・「一」

と異なるが記述内容から同一人物であると考えて良いと思われる（写真1・2）（資料1）。

#### 高岡虎市、木山奥宮 50 年間日参の記

高岡虎市は、大正 8 年から昭和 35 年に 77 歳で亡くなるまでの約 40 年間に渡り登場している。仕事関連のやりとりが主な内容だが、徐々に高岡の個人的な動向も記述されるようになり、高岡が木山神社に参詣したことがわかる記述は、解説されたものの中からもだけでも 152 件にのぼる（写真 3・資料 1）。日記の記述からは、高岡の人物が窺えるものもある。例えば、昭和 15 年 5 月 24 日「高岡君来荘 善直君無事帰還ニ并木山に御礼詣ルヲ」とあり、高岡虎市の息子が太平洋戦争から無事帰って来たことへのお礼を言い参詣している。昭和 15 年は、高岡が木山へ参詣した回数が 14 回と他年と比べ群を抜いている。また、前後の年も例年より回数が多く無事に帰ることを祈念していたと思われる。また、昭和 28 年 7 月 13 日「高岡君来荘 病夫人任任最後が近キル模様コ一週間山口医師ノ診断ヤ□□ノ件ナド 咄入 □□ハ木山行キノ予定也ト」昭和 28 年 7 月 25 日「□ト 品 葬儀費ナド 十三万円ヲ要シテト 明朝木山へ行外」昭和 28 年 7 月 26 日「今夕木山上リ」では、高岡の妻が病気になり明日をも知れない状態の中、回復祈願に木山へ参詣する様子が窺える。さらに、昭和 32 年 6 月 30 日「高岡君来談 上横

野自宅火事ニリカ幸ニ早ク発見大事ニリ由ビノ礼漸ニ木山へ参詣帰津セリト」、昭和 32 年 12 月 26 日「高岡君来荘 長女ノ知□□君□ノ大手術ヲ受ケ本日七日ニリノ間木山詣リノ他ニ是□気毒ヲ思リ」など、火事になりかけたり、長女が大手術を受けるなど困難に陥った際は必ず参詣している。晩年の高岡は、心臓を患っていて体調不良の時期が続くが木山詣を止めることはなく、ついには昭和 34 年の狛犬奉獻へとつながった。さらに最晩年には、昭和 35 年 4 月 23 日「高岡君来荘 二十七日木山建碑ヲハケシ」、昭和 35 年 4 月 29 日「高岡君来荘 木山寺碑二十七日ニ建立シテ本日帰津 休養ス」とあり、木山寺へも碑を献じていることが分かる。大変、信心深い人物であったと思われる。

#### おわりに

今回は、狛犬を台座だけでなく、日記からも見ることで別の視点から考察した。50 年間日参と書かれてはあるが、実際どのように 50 年間通ったのかは、台座からだけでは読み取れない。日記には、時代背景や参詣の様子などが書かれてあり、狛犬が奉納された時代をリアルに感じることできた。

小稿を書くにあたって、岩本えり子氏、木山神社の関係者にお世話になった。末筆ながら記して御礼申し上げます。

（資料 1）『安黒一枝の日記』 大正 10 年～昭和 35 年

大正 10 年 12 月 13 日	高岡君木山神社より帰津木山及落合ニカ所に竹器販売店を紹介してくれる。
大正 10 年 12 月 14 日	朝 高岡君来荘 木山神社に札上贈
大正 14 年 9 月 20 日	高岡君 本日木山神社へ参詣明朝帰津の旨 言使あり
大正 15 年 6 月 30 日	香山・高岡の両君木山詣テ
大正 15 年 11 月 15 日	高岡君来荘 木山神社へ電話布設寄付の件
昭和 4 年 1 月 20 日	高岡君 木山 甲斐蓬太郎君同伴来荘
昭和 4 年 6 月 3 日	高岡君来荘 因幡山林の件ニ付 今夕木山へ参詣明日帰津の旨
昭和 4 年 7 月 13 日	夜分 高岡君来訪 雑談 明朝木山詣テ 夕方帰津するとのことなり
昭和 4 年 7 月 14 日	高岡君 本日 木山詣テ
昭和 4 年 7 月 15 日	高岡君 木山より帰津
昭和 4 年 9 月 13 日	木山神社宮司 甲斐蓬太郎君来訪 社務所改築寄付の件
昭和 5 年 2 月 19 日	高岡君来荘 昨夜終列車ルヲ帰津したり迪 木山詣
昭和 5 年 5 月 4 日	高岡君等の一行 今夕木山より帰津ノ由也
昭和 5 年 7 月 12 日	本日木山参籠の約ありしも高岡先達来津ル起為免取止免 棋戦

昭和5年7月16日	朝六時起床 高岡 龍門君同伴七時三十分発ル木山神社参詣 大暑口、難く途中三回休憩十一時山上到達 木山神社及び木山寺へ参詣 木山寺尔至り高岡君の紹介尔依り和尚会見 宝物雪舟幅其他観覧 昼食を喰レ二時過ぎ 甲口老先生訪問初対面也 当□□蓬太郎君も来会スル 夕食の饗応尔アツカ懇談数刻 本日帰津予定ノ処 薦免られて遂尔一泊一時ころ迄老先生と雑談 他諸君 碁戦 夜を徹したる模様也 老杉鬱蒼天尔直立し莊嚴の観あり山上の涼味可掬 一時頃 快眠を貪る
昭和5年7月17日	朝七時起床 九時頃朝食 蓬太郎君来会 十時出発 下山十一時三十分落合発一時帰津 夕方高岡君来莊
昭和5年9月27日	高岡君来莊 午後 高岡君木山へ参詣シ
昭和6年3月7日	高岡君来莊 今夜 木山村会陽へ参詣春る由なり
昭和6年3月10日	高岡君来莊 木山より本日帰津志たり迪 夕方 辞去
昭和6年3月30日	高岡君 昨夜 木山寺より帰津したり迪来莊
昭和6年5月20日	高岡君来莊 木山寺 和尚同伴 夕食を共尔春
昭和6年6月21日	10時過 高岡君来莊 (木山より帰津)
昭和6年10月2日	高岡君来莊 午後出発 山口君同伴木山へ赴く迪
昭和6年10月4日	高岡君来莊 木山より昨夜帰津セト
昭和7年1月12日	高岡君来莊 同君ハ午後 木山詣で明夕帰津ノ筈
昭和7年2月13日	三時 高岡君来莊 木山よりの帰途
昭和7年4月5日	高岡君有り 木山詣り明日帰津ノ筈
昭和7年6月5日	高岡君来莊 同君木山詣で夕刻帰津ノ迪
昭和7年10月23日	夕方 高岡君木山より帰津 会食
昭和7年11月9日	高岡君来莊 約上書調印□□春 甲斐蓬太郎君二名来莊 木山神社ニ建築寄付金ニ関春る件不取敢金 百円也口幅
昭和7年11月26日	高岡君来莊 本日本山詣り明夕帰津ノ由
昭和7年11月28日	高岡君来莊 高岡君木山より帰津来莊
昭和8年1月6日	高岡君 木山より帰津来莊
昭和8年2月17日	高岡君来莊 木山寺会陽 神木持参 夕食ヲ共ニ春
昭和8年6月25日	十一時頃 高岡君来莊 今朝木山より帰津
昭和8年8月20日	本日 甲斐老人 葬儀予定ノ処柩料ヲ高岡君へ托し失礼
昭和8年8月21日	高岡君 夕刻 木山より帰津
昭和9年1月31日	高岡君来莊 本日本山詣 昨夕帰津ノ由
昭和9年3月6日	高岡君来莊 木山寺会陽へ参り帰途也
昭和12年2月28日	高岡君来莊 昼ヲ木山寺会陽ニ参詣来月三日迄ニ帰津さるとの事
昭和12年3月4日	高岡君 木山ヲ帰津来莊 風邪ニリ閉口シテ
昭和12年7月16日	高岡君来莊 昨夕木山ヲ帰津セト、云々
昭和12年10月19日	高岡君 夕刻 木山院ヲ明後日帰津ノ事
昭和13年1月5日	十時 高岡君来莊 本日本山詣ガ 明日着
昭和13年2月6日	高岡君来莊 □□木山へ詣り明夕帰津する迪
昭和13年3月6日	十時過ぎ 高岡君来莊 一昨日来木山参詣昨夜帰津ニ到テ 0時半辞去
昭和13年4月26日	高岡君来莊 昨夜 木山ヲ帰津セト
昭和13年4月30日	高岡君 木山へ明日帰津ノヲ

昭和 13 年 8 月 17 日	高岡君来荘	木山へ詣テ 本日帰津シ列ト
昭和 13 年 10 月 22 日	高岡君来荘	木山ヨ昨日帰津シ列ト
昭和 13 年 12 月 31 日	高岡君来荘	一昨日木山へ詣る昨夜帰津
昭和 14 年 1 月 3 日	高岡君来荘	明日 木山参詣 明後日夕方迄ニ帰津ノ筈ト
昭和 14 年 1 月 7 日	高岡君来荘	今朝木山ヨ帰津シ列ト
昭和 14 年 4 月 30 日	高岡君来荘	今朝木山ヨ帰津シ列ト
昭和 14 年 5 月 14 日	高岡君来荘	昨夕 木山ヨ帰津シ列ト
昭和 14 年 7 月 15 日	高岡君来荘	木山ヨノ帰途ヲ
昭和 14 年 8 月 7 日	高岡君来荘	木山へ参詣 昨朝一番ニテ帰津シ列ト□へ帰村
昭和 14 年 8 月 18 日	高岡君来荘	本夜 木山へ詣ルト
昭和 14 年 11 月 14 日	高岡君来荘	木山ヨ昨日帰津シ列ト
昭和 14 年 12 月 1 日	高岡君来荘	木山ヨ帰津シ列ト
昭和 15 年 1 月 2 日	高岡君来荘	木山ヨ
昭和 15 年 1 月 5 日	高岡君来荘	木山ヨ帰り列ト来荘
昭和 15 年 1 月 18 日	高岡君来荘	今朝 木山ヨ帰津シ列ト
昭和 15 年 1 月 22 日	高岡君ヨ電話	三時頃 木山詣テ 明後日帰津ヲ旨
昭和 15 年 2 月 2 日	高岡君来荘	今朝木山ヨ帰津シ列ト
昭和 15 年 2 月 24 日	高岡君ハ	今夜木山へ詣テ 26 日夜分帰津ノ筈
昭和 15 年 3 月 6 日	高岡君来荘	過刻出津シ列ト本日本山詣日明朝帰津ノ由
昭和 15 年 3 月 18 日	高岡君来荘	今朝木山より帰津シ列ト
昭和 15 年 5 月 3 日	高岡君来荘	木山ヨ帰津来荘
昭和 15 年 5 月 24 日	高岡君来荘	善直君無事帰還ニツキ木山に御礼詣ルト
昭和 15 年 7 月 20 日	高岡君来荘	満州咄ヲ久、本夕木山詣 明日帰津ノ筈
昭和 15 年 7 月 30 日	高岡君	明朝木山詣テ スルノト
昭和 15 年 8 月 26 日	高岡君来荘	午后木山へ上り明朝帰津トノ事
昭和 15 年 8 月 27 日	高岡君来荘	木山ヨ帰り列ト夕刻迄雑談
昭和 15 年 10 月 3 日	高岡君来荘	昨日木山詣ノ過刻帰津シ列ト夕刻帰村
昭和 15 年 10 月 23 日	高岡君来荘	木山ヨ昨夕帰津シ列ト
昭和 16 年 6 月 1 日	夕方	高岡君木山ヨノ帰途立ヲ
昭和 16 年 6 月 6 日	本日	木山ヨ帰り列ト
昭和 16 年 9 月 11 日	夕方	高岡君来荘木山ヨ帰津シ列ト
昭和 16 年 10 月 19 日	高岡君来荘	木山秋祭ニ参詣ルト
昭和 16 年 10 月 22 日	高岡君来荘	本日本山ヨ帰り列ト
昭和 16 年 11 月 20 日	高岡君来荘	木山戻リ列ト
昭和 16 年 11 月 23 日	高岡君来荘	木山ヨ唯今帰津シ列ト来荘ニ就キ
昭和 17 年 1 月 10 日	高岡君来荘	木山ヨ過刻帰津シ列ト木山寺ヲ□贈ル
昭和 17 年 1 月 29 日	高岡君来荘	木山ヨ帰津 来月四日 高岡君木山詣ノ序ヲ以テ調査ヲ費ヲトニル
昭和 17 年 2 月 4 日	高岡善真君	神戸岡本へ行外ト来荘 次テ高岡虎市君木山参詣ノ途次立ヲ
昭和 17 年 2 月 7 日	高岡君来荘	高岡君木山ヨ帰途立ヲ
昭和 17 年 2 月 19 日	高岡君来荘	木山入山ノ帰途
昭和 17 年 3 月 4 日	高岡君来荘	午后木山会陽ニ参詣ルト
昭和 17 年 3 月 26 日	高岡君木山ヨ	ノ帰途立ヲ

昭和 17 年 4 月 10 日	高岡君来荘	今朝木山ヨリ帰りナリト
昭和 17 年 6 月 13 日	高岡君来荘	木山へ行外ト
昭和 17 年 6 月 15 日	高岡君来荘	今朝木山ヨリ帰津シ外ト
昭和 17 年 7 月 5 日	高岡君来訪	夕刻木山へ詣テ
昭和 17 年 9 月 23 日	高岡君来荘	明日木山へ詣テ
昭和 17 年 9 月 25 日	高岡君来荘	木山戻リ
昭和 17 年 10 月 23 日	高岡君来荘	木山ヨリ帰途
昭和 17 年 12 月 5 日	高岡君来荘	木山ヨリ帰途
		(昭和 18 年～昭和 24 年までは未解読)
昭和 25 年 1 月 17 日	高岡君来訪	木山ノ帰途
昭和 25 年 3 月 12 日	高岡君来談	木山会陽引きツタキ昨日日垣
昭和 25 年 5 月 31 日	高岡君来談	木山ノ帰途
昭和 25 年 7 月 16 日	高岡君来荘	木山ヨリ帰還
昭和 26 年 2 月 26 日	高岡君来荘	木山会陽帰途 雑談
昭和 27 年 6 月 12 日	高岡君来談	昨日木山ハ本朝帰津セト
昭和 28 年 3 月 3 日	高岡君来談	夕刻 木山会陽ハ参詣スルヘ云々
昭和 28 年 3 月 8 日	高岡君来荘	昨日木山ヨリ帰津
昭和 28 年 7 月 13 日	高岡君来荘	病夫人ハ昨日最後が近キル模様コノ一週間山口医師ノ診断ヤ□□ノ件ナト 咄入 □□ハ木山行キノ予定也ト
昭和 28 年 7 月 25 日	□トノ品	葬儀費ナト 十三万円ヲ要シ外 明朝木山へ行外
昭和 28 年 7 月 26 日		今夕木山上リト
昭和 28 年 8 月 8 日	高岡君来荘	□□川ニ於□骨二本打リシ由 明朝木山へ上リシ
昭和 29 年 2 月 22 日	高岡君来荘	今日明日木山会陽
昭和 29 年 5 月 7 日	高岡君来荘	木山ニ上リ□□
昭和 29 年 5 月 29 日	高岡君再訪	明日は木山行き
昭和 29 年 11 月 30 日	高岡君来荘	木山□新□来津
昭和 29 年 12 月 2 日	高岡君来荘	木山寺□□ヘ昨日午後三時離津□山去る由
昭和 30 年 1 月 31 日	高岡君来荘	木山ヨリ帰津 来月木山会陽へ要領ヲ得ナリト
昭和 30 年 2 月 15 日	高岡君来談	木山ガ昨夕帰津シ外ト
昭和 30 年 7 月 11 日	高岡君来荘	前月末 病氣□□本月四日頃ヨリ□快 昨日 木山へ参詣スル予定ナリト
昭和 30 年 7 月 17 日	高岡君来荘	木山詣テ 五日間滞留□帰津□□□
昭和 30 年 9 月 22 日	高岡君ヲ訪テ老人一	昨日木山ハ詣テ 過刻帰り外ト
昭和 30 年 9 月 25 日	高岡君来荘	藍瑛大幅ハ木山ハ向ナリ由
昭和 30 年 10 月 11 日	高岡君来荘	木山へ参詣シ居ツタ由 色々コト話アル
昭和 31 年 3 月 8 日	高岡君来荘	□日来 真賀温泉 湯原五日間 リカ三月一日 木山会陽ニ立会昨 日帰津シ由
昭和 31 年 4 月 10 日	高岡君来談	十二日木山ハ行外ノナト 木山寺ニ□宿ノ咄ナト
昭和 31 年 4 月 18 日	高岡君来荘	木山寺落慶経過
昭和 31 年 5 月 7 日	高岡君来荘	木山ハ詣テ 昨夕来娘ノコハ帰津シ外
昭和 31 年 10 月 16 日	高岡君来荘	来ル二十日 木山秋祭ニハ赤染君ガナリ
昭和 32 年 2 月 21 日	高岡君来荘	木山会陽ヨリ昨夕帰津シ外ト
昭和 32 年 3 月 14 日	夕景 高岡君来荘	一昨日木山ハ参詣

昭和 32 年 3 月 30 日	高岡君来荘 昨日木山へ過刻シ外
昭和 32 年 4 月 21 日	高岡君木山詣テ
昭和 32 年 6 月 30 日	高岡君来談 上横野自宅火事ニリカ幸ニ早ク発見大事ニリ由比ノ礼漸ニ木山へ参詣帰津セト
昭和 32 年 8 月 7 日	高岡君来荘 勝山ヨリ木山へ詣テ昨夜帰津シ外
昭和 32 年 9 月 16 日	高岡君来談 昨朝出津シ外ト松材取計第 1 回分取□無事終了シ由 明朝ハ木山へ松材売ル
昭和 32 年 12 月 26 日	高岡君来荘 長女ノ知□□君□ノ大手術ヲ受ケ本日七日ニナリノ間木山詣リノ他ニ是□気毒ヲ思フ
昭和 33 年 2 月 23 日	高岡君来荘 木山神社へ御籠リルカマカ 温泉へ三泊昨夕帰津シ外
昭和 33 年 3 月 12 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シ外ト
昭和 33 年 6 月 19 日	高岡君来荘 木山ヨリ真賀へ漸ク昨夕帰津セト
昭和 34 年 2 月 4 日	高岡君来荘 昨日木山詣ヲシタマ 木山寺ノ御木札持参セラル
昭和 34 年 7 月 13 日	高岡君来荘 木山ノ夏祭へ参詣スル
昭和 34 年 7 月 16 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰ツタト
昭和 34 年 7 月 31 日	高岡君来荘 木山神社奉献マ犬ノ名文ヲ据ヘツタ之々
昭和 34 年 8 月 9 日	午後 高岡君来荘 十六日落合へ赴ニ奉納ノ□建□スル
昭和 34 年 10 月 6 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シ外本日帰村
昭和 34 年 10 月 16 日	高岡君来荘 来ル二十日木山秋祭ニハ赤染君ガ 来
昭和 34 年 10 月 17 日	高岡君本日 木山行
昭和 34 年 10 月 21 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津
昭和 34 年 12 月 6 日	高岡君来荘 昨日木山参リシ外
昭和 34 年 12 月 20 日	高岡君来荘 昨日木山へツタ由
昭和 35 年 1 月 10 日	高岡君来荘 一昨日木山へ詣リ昨日帰津セト
昭和 35 年 1 月 30 日	高岡君来荘 □□□木山へ詣ツタト本夕帰村
昭和 35 年 3 月 26 日	高岡君来荘 后三時ヲ車ヲ木山へ行外
昭和 35 年 3 月 29 日	高岡君来荘 木山寺昨日帰津シ外
昭和 35 年 4 月 23 日	高岡君来荘 二十七日木山建碑スルハシ
昭和 35 年 4 月 29 日	高岡君来荘 木山寺碑二十七日ニ建立シ外本日帰津 休養スル
昭和 35 年 5 月 29 日	高岡君来荘 明日木山へト
昭和 35 年 6 月 22 日	高岡君今朝遂ニ死去□照電ニ接シ由・・・云々

#### 文献

(註 1) 『岡山県人物事典』 山陽新聞社 1994

(註 2) 岩本えり子「大谷土地区画事業の一側面～安黒一枝の日記から (1)」 『年報津山弥生の里 第 16 号』 2009